

そして何よりも私には大好きな歌がありました。 (鴻野博司)

# こう野ひろし

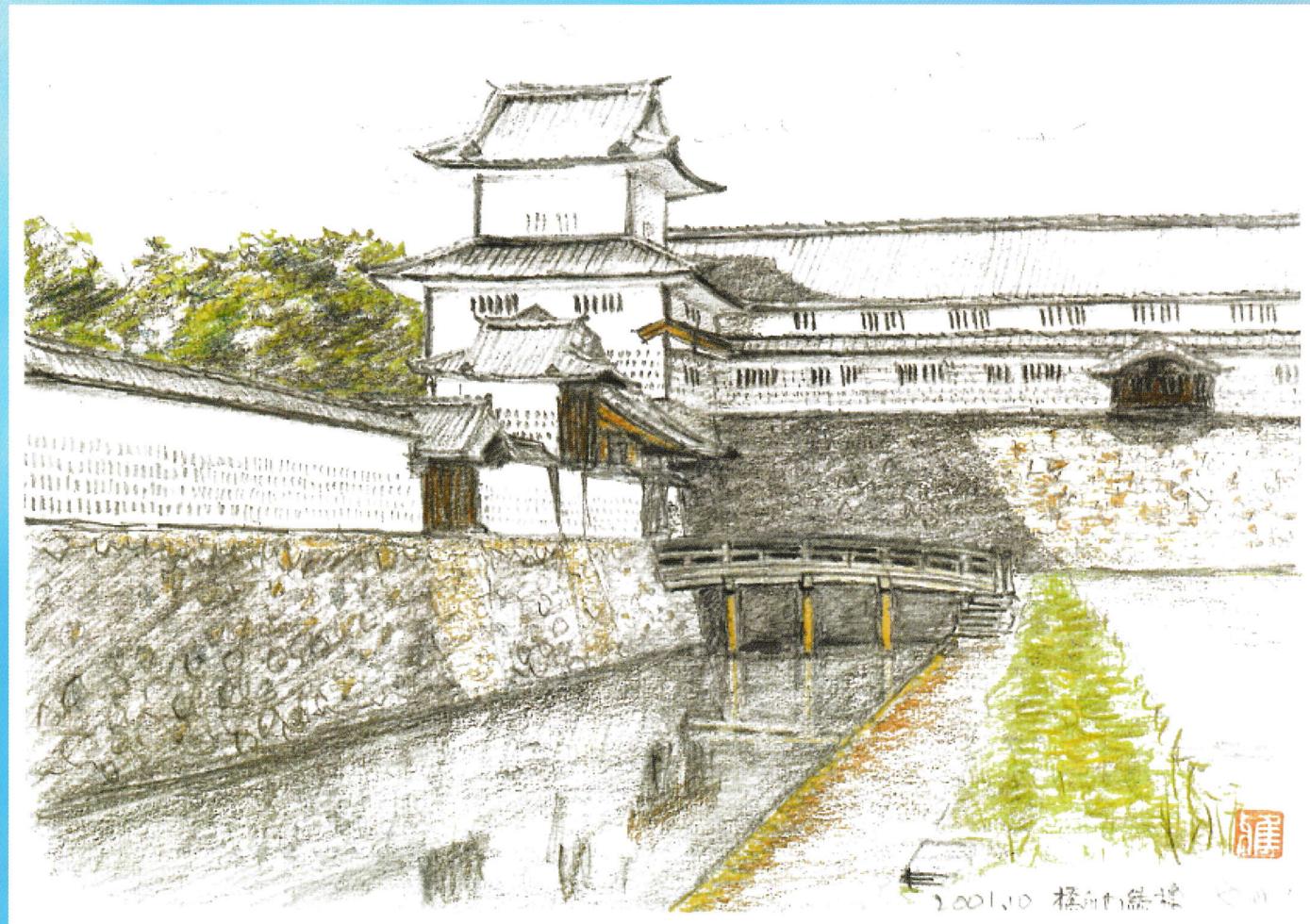
## 85歳 ありがとう

### 感謝のリサイタル

2022 / 6 / 19 (日)

金沢市アートホール

14:00 開演 / 13:30 開場



主催 こう野ひろし85歳ありがとう感謝のリサイタル実行委員会

後援 北陸中日新聞

画: 前坂雅男

# ご挨拶

今回の、『こう野ひろし八十五歳ありがとう感謝のリサイタル』にお越しいただいた多くの皆様に、心から感謝申し上げます。今回のリサイタルは昨年一度計画されたのですが、厳しいコロナ禍の中で延期を余儀なくされたものであり、今回、満を持してのリサイタル開催であります。

こう野ひろしさんは私の市議会議員時代の大先輩であります。当時のこう野ひろしさんは、血氣あふれる熱弁、そして行動力に定評があり私の良き目標でもありました。

大先輩のこう野ひろしさんが、八十五歳になられ、今尚現役でご活躍されるこのエネルギーパワーは、正に歌声活動から生まれたものであります。

今、こう野ひろしさんの歌声が、私たち人生100年時代に、尚且つ元気一杯で目標目的を失うことなく進むことの大切さや、生き方を教えて頂くものであります。また、今日の高齢化社会での大きな指針となるものであり、多くの皆様に勇気やる気を与えるものとして感動と尊敬しかありません。

そして、今回のリサイタルを通して、一人でも多くの皆様に、生きていることの楽しさ大切さを感じていただければ幸いでございます。感謝

こう野ひろし八十五歳ありがとう感謝のリサイタル 実行委員長  
石川県議会議員 中村 勲

## 心から応援します。

「リサイタルを開きます」鴻野さんの言葉に金曜日の練習会場がどよめきましたね。私達が尊敬する鴻野さん。金沢市民合唱団の創始者のひとりでもある鴻野さんが、85歳を迎えるリサイタルを開催するという宣言に、私たちは驚き、感嘆し、誇りに思い、そして何よりも私たちに与えてくれるエネルギーに感謝しました。

今まで鴻野さんから戴いた沢山のご恩に対して、ほんの僅かでもご恩返しができる機会を与えて頂き、ありがとうございます。今日は、思いっきり歌ってください。心から応援いたします。

金沢市民合唱団

## 全ての人に有難う感謝のリサイタルです

本日はようこそお越しいただき、ありがとうございます。  
つたない歌かもしれません、一生懸命歌います。

一昨年「リサイタルを開いたら」と声をかけられ、「私が?」とためらったのですが、八十五歳という年まで生かされた、それまでの多くの人に感謝して、そして八十五歳の声が、もし『元気』を届けられるとしたらと、そんな気持ちでこのリサイタルを開きました。

片岡先生、田中先生、そしてなによりも、代表の野崎晴雄さんをはじめとする金沢市民合唱団のみんなが助けてくださいました。

歌を唄って六十余年。

全ての人に「ありがとう感謝のリサイタル」です。 鴻野 博司



# プログラム

## 日本の歌より

荒城の月

歌：鴻野博司

詩：土井 晚翠 作曲：滝 廉太郎

砂山

詩：北原 白秋 作曲：中山 晋平

この道

詩：北原 白秋 作曲：山田 耕筿

## 世界の歌より

歌：鴻野博司

オー・ソレミオ

イタリア ナポリ民謡

ともしび

ロシア ロシア民謡

ローレライ

ドイツ 詩：ハイインリッヒ・ハイネ  
曲：フリードリヒ・ジルヒャー

## 思い出の歌より

歌：鴻野博司・和子

あざみの歌

詞：横井 弘 作曲：八洲 秀章

## 休憩

## 特別出演

歌：片岡のり子 ピアノ：田中直美

愛燦燦

詞：小椋 佳 作曲：小椋 佳

翼

詞：武満 徹 作曲：武満 徹

幻想即興曲 op.66

F・ショパン

見上げてごらん夜の星を

詞：永 六輔 作曲：いづみたく

夕焼け

詩：高田 敏子 作曲：信長 貴富

## カラオケによる愛唱歌

歌：鴻野博司

母ちゃんの浜唄

詞：さわだすずこ 作曲：弦 哲也

残花

詞：朝比奈 京仔 作曲：小田 純平

シクラメンのかほり

詞：小椋 佳 作曲：小椋 佳

ギター伴奏：野崎晴雄

## 特別出演

金沢市民合唱団

指揮：片岡のり子  
ピアノ：田中直美

金木犀の匂う道

詞：中田 敏明 作曲：小椋 佳

浅野川恋歌

詞：五木 寛之 作曲：山崎 ハコ

# 親友からのあたたかい言葉 2題

先輩でもあり、長い間親しくお付き合いをさせていただいている鴻野さんが昨年八十五歳を迎えたことに感謝し、少しでも皆様のお役に立てればという温かいお気持ちから、この度リサイタルを開催されるということを聞き、本当に素晴らしいことだと痛感し、衷心からお祝いを申し上げます。

鴻野さんと私とのお付き合いは、金沢市役所の市民税課で机を並べ、市民のためにお役に立つ大切な仕事に邁進しようという強い意志の持ち主、十人の仲間で組織された「重役会」の一員に加えて頂いたことが始まりです。以来、この重役会では、部署が変わっても強い絆で結ばれ、公私にわたってお付き合いを続け、春には竹の子の会、夏には海水浴、秋には紅葉狩り、暮には忘年会などと、機会ある度に、会員はもとより、家族ぐるみでのお付き合いを重ね、もう半世紀を越えて、今日に至っています。これも会員皆んなの連帯感は言うまでもなく、なんといっても鴻野さんのリーダーシップによるところが大で、これまでのお世話に感謝の気持ちで一杯です。

ところで、鴻野さんは、多趣味な方で、平素から多彩な分野でご活躍をなされておられますが、私にとっては、鴻野さんといえば、あの美声です。丁度、十年前、イタリアへのツアーにお誘いを受け、ローマでのレストランでの夕食の記憶が昨日の事の如く思い出されます。このレストランでは、食事とともに地元の歌手による歌声を聞く場が設けられていたが、食が進み、アルコールも入り、場が盛り上がりってきた時でした。鴻野さんも大変気分が良かったのでしょう。突然、みんなの前で「オ・ソレミヨ」を声高に歌い上げました。もうその場は、我々ツアーゲストはもとよりレストランのお客様全体の割れんばかりの賞賛の拍手で、一段と楽しく有意義な夕食の場となったことを鮮明に覚えています。

サミュエル・ウルマンの「青春」という詩に、人は「理想を失う時に初めて老いがくる。」と記載してあった新聞記事を見たことがあります。今日は、人生百年の時代です。鴻野さんには、これからも健康に充分にご留意いただき、今後とも、多方面にわたってのお付き合いを願っております。

最後に、重ねて、今回のリサイタルのご盛会を祈念し、筆を置きます。

元 金沢市総務部長  
友人 中西 勝之

鴻野さんの母校、中央高校の後輩として、サラリーマンとして、選挙嫌いの私にまさかの事態が待ち受けているとも知らずに十数年過ごした東京を後にして。

昭和48年秋、新婚の女房と義母の住む金石に第一歩を、プレハブメーカー日成ビルド工業に入社した私に、議員バッチを胸に社屋中に響き渡る大きな声で満刺と話す鴻野さんとの初出会いが待っていました。

やがて、選挙では町を挙げて盛り上がる土地柄なのだと身をもって知らされます。連合町会長、婦人会、各種団体長に町会長まで町は総出。勤務先の社長も負けず劣らず、どの選挙にも重鎮として関与。特に、市議の選挙は会社挙げての応援で、総務配属の私には、否応なく鴻野さんと一緒に繋がっていく定めに。

負けず劣らずは、一番身近にいる「金石の三婆（さんばばあ）」の一人、私の義母も婦人会のトップでした。職場でも家庭でも、環境に押される以上に、鴻野さんの若さと行動力、そして、よちよき歩きのおばあちゃんを車に乗せている姿に魅せられながら、選挙大好き人間に変身していく私がいました。選挙好きの地元に溶け込むように。

総務は、クレームの対応窓口もあります、時には、金沢市政に繋がる事も、当然、鴻野さんに相談し解決に導いてくれたことも少なからずです。会社近くのご自宅を訪ねると、いつも明るくチャーミングな奥様が快く迎えてくれます。奥様とは、コーラスを通じて知り合ったと後日耳にしました。失礼ながら美女と猪、政治家の奥様らしくない姿に、苦情電話等にもホッコリ治めていたのでは、と推察していました。

町会長をしていた時、道路側溝が崩れた、と住民からの相談、市役所職員がすぐ対応し間もなく修復、あまりの速さに「こうの橋」と口の端に、フェイクではありません。

鴻野さんへの思いを記しました、「こうのひろし85歳ありがとう感謝のリサイタル」女房と一緒に楽しみに行きます、85歳！成功を心から祈念いたします。

元 日成ビルド工業株式会社 常務取締役  
友人 村本 祐造

私たちと一緒に歌いませんか 金沢市民合唱団は  
団員募集中です。



練習場所 中央公民館彦三館

問合せ 080-4253-5241

<https://kanazawachorus.main.jp>

練習時間 毎週金曜日午後7時より

野崎晴雄

mail:h\_nozaki@spacelan.ne.jp